

令和元年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立峰小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和元年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成31年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 70人

② 算数 70人

5 留意事項

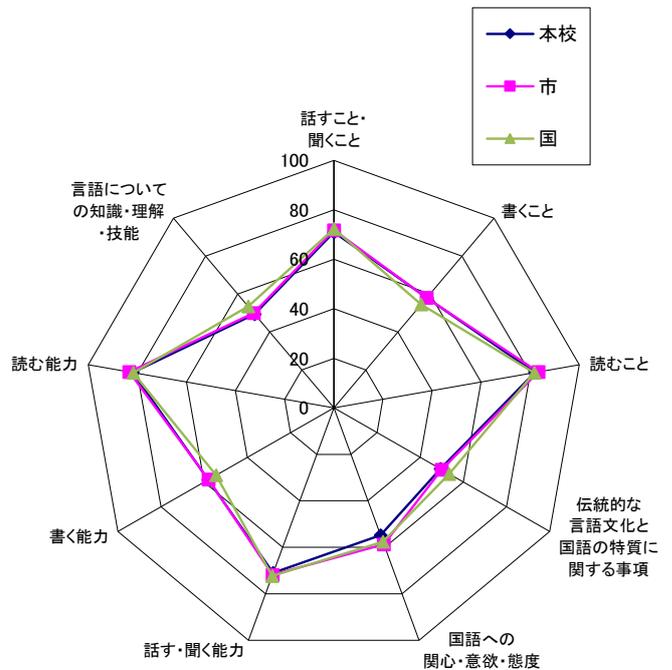
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立峰小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	71.0	71.8	72.3
	書くこと	58.1	58.0	54.5
	読むこと	81.9	83.3	81.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	49.4	50.0	53.5
観点	国語への関心・意欲・態度	54.8	58.7	57.6
	話す・聞く能力	71.0	71.8	72.3
	書く能力	58.1	58.0	54.5
	読む能力	81.9	83.3	81.7
	言語についての知識・理解・技能	49.4	50.0	53.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

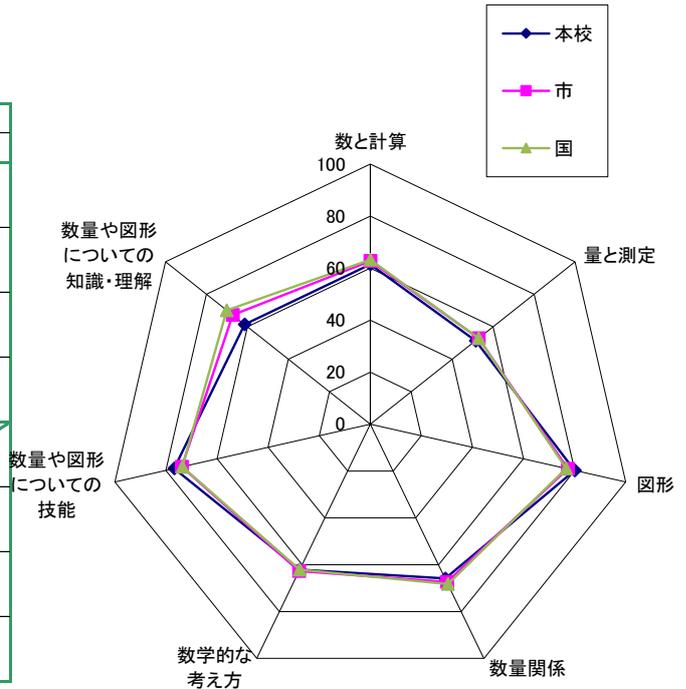
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ●平均正答率は、全国及び、市の正答率を1ポイント程度下回っている。 ○「話し手の意図を捉えながら聞き、質問をする」設問の正答率が全国や県より3ポイント上回っている。 ●「話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる」設問の正答率が全国や県より約5ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合い活動が活発になるよう、発問や環境づくりを工夫する。 ・「聞く」ことの大切さを繰り返し伝える。 ・自分の意見と友達の意見を比較しながら、考えをまとめる討論活動を多く取り入れる。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ○平均正答率は、全国及び市の正答率を上回っている。 ○「情報を相手にわかりやすく伝える工夫をする」設問の平均正答率は、全国平均を9.5ポイント上回っている。 ●全国平均より下回っているものの、設問に対して無解答の児童が、若干名みられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、ノート指導の充実を図る。 ・作文指導の際は、「内容の中心を明確にする」ことを指導の重点とする。 ・授業中での「書く」活動や日常の作文指導の充実を図る。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ●平均正答率は、全国の正答率とほぼ同様であり、市の正答率を1.4ポイント下回っている。 ○「目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読む」設問の正答率は94.3%と高く、全国及び県平均を上回っている。 ●「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ自分の考えを明確にしながらか読む」の記述式の設問の正答率は71.4%であり、全国より4.5ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・説明文では、筆者の主張点は何かを読み取らせるために、要約や要旨を捉えて記述する指導の充実を図る。 ・物語文では、登場人物の心情の変化や主題を正確に読み取らせる指導を今後も続けていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ●平均正答率は、全国の正答率より4.1ポイント下回っている。 ●「ことわざの意味を理解して自分の表現に用いる」設問の正答率は68.6%であり、全国より4.4ポイント下回っている。 ●「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」の設問の正答率が低い漢字があった。 ○「文と文とのつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く」設問の正答率は51.4%であったが、全国を3.6ポイント上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ことわざ」に関して、授業で指導するとともに、日常生活の中で「ことわざ」の使い方を指導する。 ・漢字について、筆順を意識させたり、丁寧に書かせたりする指導を継続していく。 ・ノートや作文など、書く活動において、習った漢字を正しく使えるように指導する。

宇都宮市立峰小学校第6学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	61.4	62.7	63.2
	量と測定	51.4	52.9	52.9
	図形	80.0	77.3	76.7
	数量関係	65.9	67.4	68.3
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	62.1	62.7	62.2
	数量や図形についての技能	76.8	73.8	73.6
	数量や図形についての知識・理解	61.4	67.2	70.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>●平均正答率は、61.4%であり、全国及び市の正答率を下回っている。</p> <p>○「示された減法に関して成り立つ性質を基にした計算のしかたを解釈し適用する」設問の正答率は85.7%であり、全国や県より約4ポイント上回っている。</p> <p>●「示された除法の式の意味を理解している」設問の正答率は31.4%であり、全国より15.6ポイント下回っている。</p>	<p>・計算練習は今後も繰り返し練習する。小数や分数の計算では、小数点の移動や通分、約分を確認し習熟を図る。</p> <p>・除法については、被除数と除数に同じ数をかけても商は変わらないというきまりを再度確認し、理解の深化を図る。</p>
量と測定	<p>●平均正答率は、51.4%であり、全国及び市の正答率を1.5ポイント下回っている。</p> <p>○「示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述する」設問の正答率は47.1%であるが、全国より3.2ポイント上回っている。</p> <p>●「1人あたりの水の使用量の増減を判断しその理由を記述する」設問の正答率は44.3%であり、全国より7.8ポイント下回っている。</p>	<p>・単位量あたりの大きさを求める除法の式と商の意味についての理解を深める。</p> <p>・単位量あたりの大きさを求める問題では、数直線や場面絵を活用することで理解させる。</p>
図形	<p>○平均正答率は、全国及び、市の正答率を約3ポイント上回っている。</p> <p>○「図形の性質や構成要素に着目しほかの図形を構成する」設問の正答率は68.6%であり、全国や県より約8ポイント上回っている。</p> <p>○「台形について理解する」設問の正答率は91.4%であり、全国や県と同程度である。</p>	<p>・図形の学習では、今後も具体物を使ったり図をかいたりする活動を多く取り入れるようにする。</p> <p>・図形の構成要素や性質について確認し、それらを活用できるよう習熟を図る。</p>
数量関係	<p>●平均正答率は、全国及び市の正答率を下回っている。</p> <p>○「棒グラフから資料の特徴や傾向を読み取る」設問の正答率は98.6%であり、全国や県を約3ポイント上回っている。</p>	<p>・グラフについては、読み取りだけではなく、文章の情報と関連させたり、複数のグラフから適切に判断したりするような活用の場を増やしていく。</p> <p>・四則演算のきまりについて、今後も指導を行う。</p>

宇都宮市立峰小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「先生は、あなたのおいところを認めてくれていると思いますか」の設問に対し、肯定的回答は98.6%で、これは県の平均を7.9ポイント上回った。今後も、一人ひとりの子供たちのよさに目を向け、認め励ましたいと考える。

○「読書は好きですか」の設問に対し、肯定的回答は83.1%で、これは県の平均を7.1ポイント上回った。今後も、学校図書館を活用し、読書活動の推進を図る。

○「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」の設問に対し、肯定的回答は76.1%で、これは県の平均を15.6ポイント上回った。これは、本校が地域に根差した活動ができてきている証拠であり、今後も地域と連携を図って教育活動に取り組んでいきたい。

○「外国人の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたいと思いませんか」の設問に対し、肯定的回答は78.8%で、これは県の平均を8.6ポイント上回った。今後も外国語活動や、諸外国に興味関心を持つことができるような教科の指導を行う。

●「授業で学んだことを他の学習にいかしていますか」の設問に対し、肯定的回答は78.9%で、これは県の平均を6.9ポイント下回った。今後は学習したことを複数の教科と関連付けて指導することで、児童の知識の定着を図っていききたい。

●「将来の夢や目標をもっていますか」の設問に対し、「もっていない」と答えた児童の割合が、全国平均より若干高い。今後は、キャリア教育を充実し、夢や希望をもって中学校へ進学することができるよう支援していく。

宇都宮市立峰小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	年度初めに家庭学習の手引きを作成し、その中で曜日ごとの学習時間の予定を立てるなどして、計画的に学習を意識させる。	「家で自分で計画を立てて学習していますか」の肯定割合は74.7%で県や全国の平均より高い。しかし、平日の一日当たりの学習時間が1時間以上の割合は53.6%で県や全国の平均より下回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科に関する調査において、言語についての知識・理解・技能に関わる問題の中で県や全国平均よりも正答率が低いものがいくつかあった。	ワークシート等を活用した、復習による内容定着を図る指導の工夫	漢字の習得については繰り返し学習や小テストなどを用いて、定着を図ると共に、学期末や学年末に複数単元の内容をまとめて復習する学習を行い、習熟を深める。さらに、書く活動を意図的に取り入れ、文の中で正しく言葉や漢字が使えるようにする。